

在ポルトアレグレ領事事務所 推薦叙勲受章者

〈邦人叙勲〉

氏名	年齢	住所	勲等	国籍
麻生 陽	91歳	リオ・グランデ・ド・スール州 ポルトアレグレ市	旭日双光章	ブラジル (帰化人)

(主要経歴)
元 南日伯援護協会会長

(主な功績)
麻生氏は、昭和33年8月、26歳の時にブラジル国サンパウロ州サントス港に日本人移民として上陸後、リオ・グランデ・ド・スール州のカショエリーニャ市で借地農（花卉、野菜栽培）としてブラジルでの移住を開始した。その後、既に親族が移り住んでいた同州イタチ移住地に転住して花卉栽培に従事した。谷間の集落として開発から取り残されていたイタチ市では、自作農として日系移民を歓迎し、同氏は主に花卉栽培と花卉の委託販売等で成功を収めてイタチ市の発展に貢献した。また、イタチ市では相撲大会や盆踊りなどを地域住民と共に積極的に開催するなど、地域住民との相互理解、友好親善の促進に寄与した。

また、南日伯援護協会の設立後、直ぐに同協会の会員となっていた同人は、イタチ市での花卉栽培、及び花卉の委託販売を始めた頃から、ポルトアレグレ市を訪れる際には同協会に立ち寄ると共に、時間の都合がつく限り、イベントや活動に積極的に参加してきた。昭和50年に販売業務拡大のため、単身州都ポルトアレグレにも居を構えたこととも相まって、協会の活動に積極的に参加した。そのような同人のまじめで気さくな性格もあり、他の会員からの信頼を得て、平成11年から2年間、平成14年からは1年間、同協会の副会長として、ブラジル南部の2州（リオ・グランデ・ド・スール州及びサンタカタリーナ州）に散在する日系移住者の活動を支援すると共に、平成15年から3年間、ブラジル南部日系団体の要である同協会の会長として活発に活動を主導し、日系移民の社会福祉の向上と増進に大きく貢献した。



氏名	年齢	住所	勲等	国籍
高梨 輝久	82歳	リオ・グランデ・ド・スール州 カシアス・ド・スール市	旭日双光章	日本

(主要経歴)
・元 カシアス・ド・スール日本語学校校長
・現 カシアス・ド・スール日本人会会長

(主な功績)
高梨氏は、昭和36年10月、第一回公募移住者（技術移住：金型工）として渡伯（サンパウロ州サントス港に上陸）後、サンパウロ市所在の会社等で技術を活かして勤務した後、リオ・グランデ・ド・スール州カシアス・ド・スール市に所在の会社に移籍して金型課の課長を務めた。その後、同人の人柄の良さと高い技術力が目に留まり、同地の電機会社にて取締役兼工場長として迎えられた。同人は昭和44年11月、同地の伯人と結婚し、そこに根を下ろすことになった。同人は、ごく自然に同地に溶け込んでいったが、同地のコミュニティを知るにつれて、同地に日本人や日系人コミュニティの拠り所となるものが無いことに気づき、日本人・日系人の親睦と福祉の向上、またその子弟が日本語を話し、読み書きが出来るようにするために意を決し、他の邦人仲間と「カシアス・ド・スール日本人会」を立ち上げ、自ら「カシアス・ド・スール日本語学校」を開校した。当初は自宅とガレージで始めたものであるが、現在まで途切れることなく、同地日本人・日系人をしっかり繋ぐ拠点として半世紀以上継続してきている。このことは、同人の温かい人柄と日本語普及にかけた熱意、そして日伯両国間の相互理解を一層深めたいと願う同人の大きな貢献の賜である。

